

三沢市立三沢病院での内科実習を終えて

弘前大学医学部医学科 5 年中井 杏美

消化器内科での 2 週間の実習を通して、これまでの学びの枠を超えるような深い気づきを得ることができました。特に印象に残ったのは、予後が悪い患者さんのご家族へ治療方針を説明する場面で、死期が迫ったときに蘇生処置を行うかどうかという極めて重い選択を伝える際、単にいくつかの選択肢を示すだけではご家族がかえって困惑してしまうことが多いという点でした。これまでには、延命処置を含めた複数の選択肢を公平に提示することが重要だと考えていましたが、それ以上に「患者さんにとって最も良いと思われる選択肢を医師が明確に推す」という姿勢こそが、ご家族にとって理解しやすく、納得して決断できる大きな助けになるということを学びました。医師が専門的な判断に基づいて推奨を伝え、そのうえでご家族の意向を丁寧に聞き取ることで、双方が同じ方向を向いた上で看取りの準備が進み、結果として患者さんがより良い形で最期の時間を過ごすことにつながるということを間近で見ることができ、医療者としての責任の重さと重要性を強く感じました。



外来では医師と患者さんとの間に非常にアットホームな雰囲気があり、どんなことでも気軽に相談できる関係性が築かれていることに感銘を受けました。医師が穏やかに接し、患者さんが安心して話せる環境をつくることは、病状理解や治療継続にも大きく影響するものであり、将来自分が医師になった際にはぜひ真似したい姿勢だと感じました。さらに、医師とコメディカルスタッフとの連携が非常にスムーズで、互いを尊重しながら診療が進んでいく様子を実際に体験し、チーム医療の質が患者さんの療養環境を大きく左右することを実感しました。

消化器内科での実習は、専門知識の習得だけでなく、患者さんやご家族との向き合い方、チームとして支える姿勢など、これから医学生生活にも医師としての将来にも深く生きる大切な学びを得られた貴重な時間となりました。いつも温かい雰囲気で指導してくださいださった鈴木先生、小野寺先生、医療スタッフの皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実習期間：2025.10.27～2025.11.7